

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年3月13日

【四半期会計期間】 第60期第3四半期(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

【会社名】 佐藤食品工業株式会社

【英訳名】 SATO FOODS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐 藤 元

【本店の所在の場所】 新潟県新潟市東区宝町13番5号

【電話番号】 025-275-1100 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 近 藤 充

【最寄りの連絡場所】 新潟県新潟市東区宝町13番5号

【電話番号】 025-275-1100 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 近 藤 充

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第3四半期 連結累計期間	第60期 第3四半期 連結累計期間	第59期
会計期間	自 2018年5月1日 至 2019年1月31日	自 2019年5月1日 至 2020年1月31日	自 2018年5月1日 至 2019年4月30日
売上高 (千円)	33,669,712	34,985,935	40,900,466
経常利益 (千円)	1,709,418	1,252,933	1,347,019
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,160,355	784,483	892,005
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	986,425	769,102	787,291
純資産額 (千円)	12,992,330	13,460,938	12,792,964
総資産額 (千円)	35,407,670	38,362,098	30,832,382
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	230.04	155.52	176.84
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	36.7	35.1	41.5

回次	第59期 第3四半期 連結会計期間	第60期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年11月1日 至 2019年1月31日	自 2019年11月1日 至 2020年1月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	220.70	201.86

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（2019年5月1日から2020年1月31日まで）におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境に改善が見られるなど、緩やかな回復基調が続いているものの、新型コロナウイルスの出現が世界経済に与える影響や、米中貿易摩擦をはじめとした海外情勢の不確実性により、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、消費者の節約志向は依然として根強く、また人手不足を背景とした人件費や物流費の上昇など、引き続き厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、お客様の安全・安心に重点をおいた包装餅及び包装米飯製品の安定供給、並びに適正価格での販売に努めることを基本に事業活動を推進してまいりました。

おいしさの追及はもちろんのこと、お客様の消費動向を捉えながら、多様化するニーズに対応可能な生産体制の整備を進めるとともに、全社一体となった営業活動に取り組むことで業績の拡大を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は包装餅及び包装米飯製品ともに主力製品を中心に堅調に推移したことから、前年同期比13億16百万円増の349億85百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

利益面につきましては、聖籠工場の新設により売上原価が増加したものの、売上高の伸長により売上総利益は140億24百万円（前年同期売上総利益136億66百万円）と増加いたしました。しかしながら、前年より続く物流費の上昇、および販売増にともなう販売促進費の増加により、営業利益は10億88百万円（前年同期営業利益15億68百万円）、経常利益は12億52百万円（前年同期経常利益17億9百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益については7億84百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益11億60百万円）となりました。

なお、当社グループは主力製品である包装餅が季節商品（特に鏡餅）であり、その販売が年末に集中するため、第3四半期連結会計期間の売上高及び利益が他の四半期連結会計期間に比べ著しく増加する傾向があります。

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるためセグメント別の記載を省略しておりますが、製品分類別の販売動向は以下のとおりであります。

#### 製品分類別の販売動向

##### (包装餅製品)

包装餅製品では、当社グループだけが使用している「ながモチフィルム」（酸素吸収機能をもつ透明な個包装フィルム）の特性を、よりお客様にご理解していただくことを目的に、同フィルムのロゴがおいしいお餅のしるしであることをアピールするテレビCMを継続放映するなど、販売拡大に努めました。

新商品としては、主に鍋料理にお使いいただくことを想定した「サトウのしゃぶしゃぶもち」や、調理しやすさ食べやすさを追求し、お餅の大きさを弊社従来品よりコンパクトな20gに設計した「サトウの切り餅シングルパックミニ」、「サトウのまる餅シングルパックミニ」を発売し、更なる需要拡大に向けた取組みを実施いたしました。

また、鏡餅については、消費者の皆様へ、より最適な商品を選んでいただけるように、「サトウのサツと鏡餅」シリーズに新たに1,000gタイプ・400gタイプを加えるなどのラインナップ充実や、一部商品にパッケージのリニューアルを図るとともに、最需要期に向けたCM放映や、販促キャンペーンを実施いたしました。

その結果、包装餅製品の売上高は182億10百万円（前年同期比1.2%増加）となりました。

##### (包装米飯製品)

包装米飯製品では、近年、特に小盛り・大盛りサイズの販売が好調に推移し、容量別の消費者ニーズが高まってきたことから、商品のバリエーション強化を目的に「サトウのごはん銀シャリ」に“小盛り150g”、“大盛り300g”の2アイテムを追加発売しました。

また、原料米の産地であるJAと提携して、各地の特産品をプレゼントする販促キャンペーンを実施する等、販売促進に取り組みました。

加えて、日本古来の炊飯方法を忠実に再現した独自の製造技術（厚釜ガス直火炊き）により、電子レンジ2分で家庭と同様の炊き立てごはんを再現できることや、製品名に原料米の産地銘柄を明確に表示していることがお客様の利便性及び安全・安心意識にマッチし、売上高は堅調に推移いたしました。

その結果、包装米飯製品の売上高は167億58百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は189億39百万円となり、前連結会計年度末に比べ70億12百万円増加いたしました。これは主に原材料及び貯蔵品が10億52百万円、仕掛品が4億13百万円それぞれ減少したものの、受取手形及び売掛金が73億72百万円、商品及び製品が4億60百万円増加したことによるものであります。

固定資産は194億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億19百万円増加いたしました。これは主に聖籠工場の新設とともない、有形固定資産のその他(建設仮勘定等)が38億58百万円減少し、建物及び構築物が24億64百万円、機械装置及び運搬具が19億79百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は383億62百万円となり、前連結会計年度末に比べ75億29百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は163億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ63億36百万円増加いたしました。これは主に、流動負債のその他(未払費用、未払消費税及び未払法人税等)が4億53百万円減少したものの、運転資金としての短期借入金が61億60百万円、未払金が10億70百万円増加したことによるものであります。

固定負債は85億56百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億25百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が5億80百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は249億1百万円となり、前連結会計年度に比べ68億61百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は134億60百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億67百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が6億83百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は35.1%(前連結会計年度末は41.5%)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じたものはありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億24百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設のうち、当第3四半期連結累計期間に完了したものは、次のとおりであります。

2020年1月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	総投資額 (百万円)	資金調達方法	取得年月	完成後の 増加能力
聖籠工場 (新潟県北蒲原郡)	無菌化包装米飯 製造工場	5,289	借入金及び 自己資金	2019年6月	包装米飯 生産能力24%増

(注) 1 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

2 上記の聖籠工場は、2019年6月に完成し、製造開始しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,300,000
計	16,300,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年1月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年3月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,075,500	5,075,500	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	5,075,500	5,075,500		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年11月1日～ 2020年1月31日		5,075,500		543,775		506,000

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

##### (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

###### 【発行済株式】

2020年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 31,300		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,023,800	50,238	同上
単元未満株式	普通株式 20,400		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,075,500		
総株主の議決権		50,238	

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式73株を含めております。

###### 【自己株式等】

2020年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 佐藤食品工業株式会社	新潟市東区宝町13番5号	31,300		31,300	0.61
計		31,300		31,300	0.61

#### 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年11月1日から2020年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年5月1日から2020年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	349,847	628,913
受取手形及び売掛金	6,155,029	13,527,949
商品及び製品	1,790,732	2,251,537
仕掛品	630,586	217,367
原材料及び貯蔵品	2,899,152	1,847,063
その他	106,702	476,620
貸倒引当金	4,830	10,220
流動資産合計	11,927,221	18,939,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,424,128	5,889,101
機械装置及び運搬具（純額）	4,516,500	6,496,146
土地	2,346,415	2,346,415
その他（純額）	4,318,354	459,816
有形固定資産合計	14,605,399	15,191,479
無形固定資産	98,575	168,909
投資その他の資産		
投資不動産（純額）	2,459,818	2,438,136
その他	1,765,351	1,650,156
貸倒引当金	26,020	26,020
投資その他の資産合計	4,199,150	4,062,272
固定資産合計	18,903,125	19,422,662
繰延資産	2,035	203
資産合計	30,832,382	38,362,098

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,197,854	991,698
短期借入金	1,050,000	7,210,040
未払金	3,386,410	4,457,277
引当金	399,179	164,096
その他	3,975,215	3,522,000
流動負債合計	10,008,659	16,345,113
<b>固定負債</b>		
長期借入金	6,653,563	7,234,430
引当金	60,414	57,224
退職給付に係る負債	1,020,043	1,004,181
その他	296,737	260,209
固定負債合計	8,030,758	8,556,046
負債合計	18,039,418	24,901,159
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金	506,000	506,000
利益剰余金	11,430,384	12,113,984
自己株式	36,167	36,412
株主資本合計	12,443,992	13,127,347
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	603,540	557,053
退職給付に係る調整累計額	254,568	223,462
その他の包括利益累計額合計	348,972	333,591
純資産合計	12,792,964	13,460,938
負債純資産合計	30,832,382	38,362,098



## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年5月1日 至2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年5月1日 至2020年1月31日)
売上高	33,669,712	34,985,935
売上原価	20,003,287	20,961,267
売上総利益	13,666,424	14,024,668
販売費及び一般管理費	12,098,028	12,936,321
営業利益	1,568,396	1,088,346
営業外収益		
受取配当金	13,100	14,464
受取賃貸料	143,022	145,770
副産物収入	55,095	67,904
その他	102,686	82,070
営業外収益合計	313,905	310,210
営業外費用		
支払利息	49,669	32,508
賃貸費用	64,851	70,191
その他	58,362	42,923
営業外費用合計	172,883	145,623
経常利益	1,709,418	1,252,933
特別利益		
固定資産売却益	5,670	-
投資有価証券売却益	6,025	-
特別利益合計	11,695	-
特別損失		
固定資産売却損	1,334	-
災害による損失	-	2 63,937
特別損失合計	1,334	63,937
税金等調整前四半期純利益	1,719,780	1,188,996
法人税、住民税及び事業税	409,040	344,024
法人税等調整額	150,385	60,488
法人税等合計	559,425	404,513
四半期純利益	1,160,355	784,483
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,160,355	784,483

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年5月1日 至2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年5月1日 至2020年1月31日)
四半期純利益	1,160,355	784,483
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	201,584	46,486
退職給付に係る調整額	27,654	31,106
その他の包括利益合計	173,929	15,380
四半期包括利益	986,425	769,102
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	986,425	769,102
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

仕入取引の担保として差し入れた振出手形は、前連結会計年度および当第3四半期連結会計期間ともに100,000千円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 売上高等の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自2018年5月1日至2019年1月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自2019年5月1日至2020年1月31日)

当社グループは、主力製品である包装餅が季節商品(特に鏡餅)であり、その販売が年末に集中するため、第3四半期連結会計期間の売上高及び利益が他の四半期連結会計期間に比べ著しく増加する傾向にあります。

2. 災害による損失

当第3四半期連結累計期間(自2019年5月1日至2020年1月31日)

2019年8月に発生した九州北部豪雨により被害を受けた製品廃棄損の金額であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年5月1日 至2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年5月1日 至2020年1月31日)
減価償却費	1,158,992千円	1,597,690千円
のれんの償却額	15,988千円	5,329千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年7月25日 定時株主総会	普通株式	100,884	20.00	2018年4月30日	2018年7月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年7月22日 定時株主総会	普通株式	100,882	20.00	2019年4月30日	2019年7月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)

当社グループは、包装餅製品及び包装米飯製品の原材料仕入及び販売市場がそれぞれ同一であることから、工場別・営業拠点別及び全社トータルによる収益管理を行っておりますが、事業戦略の意志決定、経営資源の配分等は当社グループ全体で行っているため、セグメント情報の開示は省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)
1株当たり四半期純利益	230円04銭	155円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,160,355	784,483
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	1,160,355	784,483
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,044	5,044

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

特記事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年3月12日

佐藤食品工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石尾 雅樹 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齋藤 康宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている佐藤食品工業株式会社の2019年5月1日から2020年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年11月1日から2020年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年5月1日から2020年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、佐藤食品工業株式会社及び連結子会社の2020年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。